

「こんなにちは健保組合です！」

の巻



事業所訪問シリーズも早いもので、今回で四年目に入りました。皆さん、の会社にお邪魔して私たち事務局との距離を縮めようとするのが狙いで始めたこの企画も、お陰様で本誌面に定着したところです。ご存じのとおり当健康保険組合には四三〇強の事業所が加入されておりますが、全社に足を運ぶ（百年以上かかりますか……）という目標が絵空事となりないように、自分たちに言い聞かせながら今日も取材に向かいました。

平成の米騒動がいよいよ勃発か？ というほど日本の米事情は芳しくない今日このごろですが、皆さんの台所事情はいかがなものでしょうか。そんな暗い話題とは裏腹に、私たちが取材にうかがった三月十一日は、陽光眩しく、空いっぱいのライトブルーで気分は爽快でした。

今回お邪魔させて頂いたのは、東

武野田線野田市駅と国道一六号線との間にある野田小型運送株式会社でした。同社は昨年、残念にも社のイニシアチブを取つておられた社長が逝去されました。それからまだ一年にも満たないこの時期に不謹慎かと思いましたが、あえてお邪魔させて頂いたのは健康管理に携わる私たちとしては『もつと早期に手が打てなかつたものか、もつと健康保険組合としてなすべきことはなかつたのだろうか』という疑念に駆られ、そんな話題に触れられたらと考えなが

なっていた自己の健康について、これからは会社のためにも、家族のためにも関心を持つように心がけたい」と約束してくださいり、この話題は深津部長の「役員の方々が健康管理を率先して実行するようになれば、その姿を見て私たちもそれにつづいて健康な人間は健康であるとのあたりがたさに気づかず、健康を害して初めて健康であつたことに感謝するのです。その健康でありつづけるために健康保険組合は微力ながら貢献していくかなければ改めて心に刻むのでした。染谷社長も「おろそかに

大海に望む船が舵を失うことは致命傷となりかねません。そのためには常にオーバーホールに心がけられ実行していくなければ良い航行はできないのです。事業所の社長という職は、その舵という重責に置かれているのではないのでしょうか。いつも感じるところですが、私たちを含めて健康な人間は健康であるとのあたりがたさに気づかず、健康を害して初めて健康であつたことに感謝するのです。その健康でありつづけるために健康保険組合は微力ながら貢献していくかなければ改めて心に刻むのでした。染谷社長も「おろそかに

なっていた自己の健康について、これからは会社のためにも、家族のためにも関心を持つように心がけたい」と約束してくださいり、この話題は深津部長の「役員の方々が健康管理を率先して実行するようになれば、その姿を見て私たちもそれにつづいて健康な人間は健康であるとのあたりがたさに気づかず、健康を害して初めて健康であつたことに感謝するのです。その健康でありつづけるために健康保険組合は微力ながら貢献していくかなければ改めて心に刻むのでした。染谷社長も「おろそかに

の業界は従業員の定着がなかなか難しいと言われていますが、この数字からもうかがえるとおり社員の方々の定着率が良いのは、人材を重視し、人情味あふれるこの会社に愛着を感じ生涯の職場として選択した方々の心中を察するのは容易でした。

この厳しい時世に、人情だけで経営はできませんが、温情を出しおいしみすることなく、有効的な経営戦略で邁進しておられる同社は、不況に屈することなくますます発展されることでしょう。

まだまだ話題は尽きませんでしたが、予定の時刻が経過したので、最後に貴重な時間を割いて取材におつき合いくださった染谷社長をはじめ役員の方々にお礼を述べて、本日の取材を終え帰路につきました。ご協力ありがとうございました。

ふと思い起こしたことですが、偶然にも一昨年この企画で野田市にお邪魔していたのでした。やはり私たちも日本人、この記事が皆さんのお手元に届くころにはみごとに身縫いをして人を楽しませてくれる桜の名所のあるこの地に、知らずと呼び寄せられたのでしょうか。皆さんは、花よりだぶ派ですか？ それとも……：

ら車を目的地に走らせました。

野田小型運送株式会社に到着し、車を降りて事務所のドアを開け、「ここにちは、健康保険組合です！」と挨拶すると、執務中だった当組合事務員の方々が業務に励まれておられました。

事務所は点在するキッコーマンのプラントの中にある、その事務所では事務員の方々が業務に励まれておられました。

野田小型運送株式会社は、昭和四二年の設立、キッコーマン醤油の空瓶輸送が主な業務で、空瓶の検収場から瓶詰工程へ移送する役割を担つておられたそうです。現在でもキッコーマンとは仕事上、密接な関係を保つておられるとのこと。細谷氏は

「我々は派手さもない地道な業界に置かれているので比較的安定しておられたそうですが、現在でもキッコーマンとは仕事上、密接な関係を保つておられるとのこと。細谷氏は『我々は派手さもない地道な業界に置かれているので比較的安定している』と話されました。

次に、会話は健康管理についてに移行しました（ここから、所要で外出されおられた染谷社長・深津部長が対談に加わってくださいました）。細谷専務から「当社では病で苦しむ人を立てつけに目の当たりにしてきた」と切り出され、「今までは検診事業をそれほど重要視していなかったが、これからは自ら進んで人間ドックに入るよう心がける」とおっしゃってくださいました。（このあたりから、冒頭に書いたような私たちが望んだ話題へと展開していきました）。氏は「予防医学の啓蒙について健康保険組合はさらに傾注してほしい」とつづけられ、疾病予防に対する相当な決意がひしと伝わってきました。



▲右から細谷専務、染谷社長、深津部長